

継続事業評価調書
【河川事業】

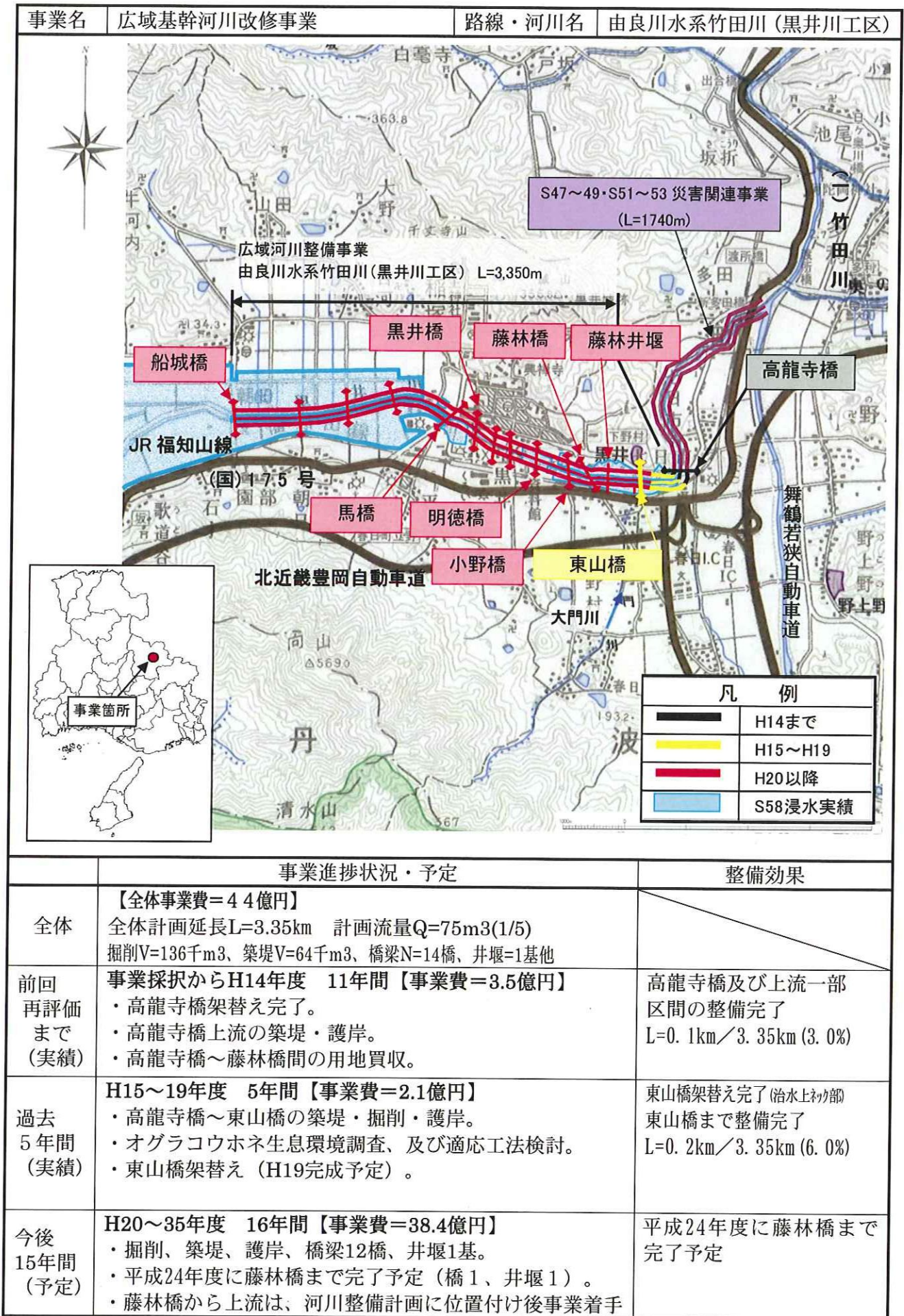
一級河川 黒井川

土木局河川整備課

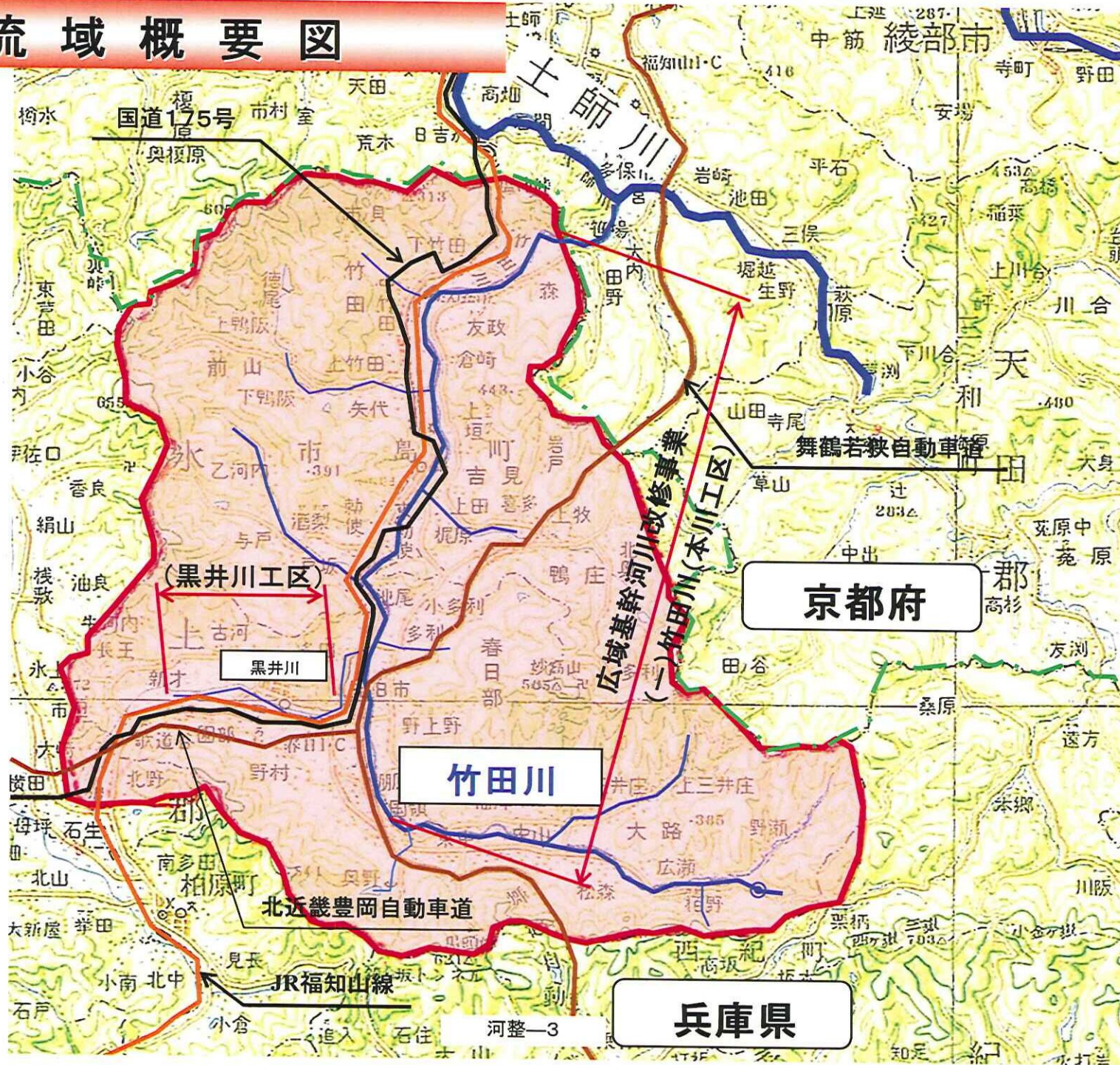
投資事業評価調書（継続：再評価〔第3回〕）

部課室名	県土整備部 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課 森脇康仁 (治水係長 松井三思呂)	内線	4408 (4437)		
事業種目	河川事業	事業採択年度	H4		現計画	再評価時点(H13)	
事業名	一級河川竹田川水系 黒井川 広域基幹河川改修事業	着工年度	H4	総事業費	44億円	44億円	
		再評価年度	H13(前回) H14(整備計画策定)	内用地補償費	19.5億円	19.5億円	
事業区間	丹波市春日町野村～船城			完成予定年度	H35	H30	
所在地	丹波市春日町野村～船城			進捗率 (内用補捗率)	13% (14%)	8% (13%)	
				残事業費	38億円	40億円	
事業の目的		事業内容					
昭和58年9月の台風10号による洪水に対し、床上浸水防止を目的に整備を進め氾濫区域内の床上浸水を防止する。				現計画	前回(H13)		
		計画流量	整備延長	75m ³ /s (1/5)	3,350m	75m ³ /s (1/5)	3,350m
		橋梁	井堰	14橋	1基	14橋	1基
		〔負担割合 国:1/2, 県:1/2〕					
事業を取り巻く社会経済情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> 平成14年度に策定した「由良川水系竹田川圏域河川整備計画」においては、藤林橋下流区間約700mを事業区間として位置づけている。 北近畿豊岡自動車道の開通(H17)など、今後市街化が進む可能性が高く、浸水被害を防止する必要性は高まっている。 平成16年10月台風23号でも、浸水被害が発生するなど、河川改修の地元要望も高まっている。 						
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 全体区間3,350mの内、高龍寺橋～藤林橋間の約700mの用地買収を完了し、高龍寺橋から約200mの工事を完了している。 治水上ネック部である東山橋については、本年度中に完了する予定である。 学識経験者とともに「オグラコウホネ（兵庫県レッドデータブック絶滅危惧種A）」の生息環境に配慮した検討を進め、藤林橋上流のオグラコウホネの移植実験を行うなど、保全対策に努めている。 藤林橋上流部の河川整備計画については、平成13年10月に「黒井川河川整備計画懇話会」を設置し調査検討を進めた。今後は、早期に藤林橋上流の事業区間の河川計画を取りまとめ、河川整備計画に位置付ける。 						
評価視点	評価結果の説明						
(1) 必要性	<ul style="list-style-type: none"> 当該地域は、S58年9月台風10号により浸水面積180ha、浸水家屋32戸の浸水被害を受けている。その他、H2年9月台風19号、H11年9月台風18号、またH16年10月台風23号においては浸水面積74ha、浸水家屋29戸と、度重なる被害を受けている。 藤林橋～馬橋付近にかけては、JA、工場、丹波市春日支所、小学校、JR福知山線などが立地しており、現況流下能力は計画流量の約50%しかなくS58年H16年においても浸水被害が発生しており、河川改修の必要性は高い。 						
(2) 有効性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> 費用便益比 B/C=3.2 藤林橋までの用地買収は完了しており、事業執行環境は整っている。 						
3) 環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> オグラコウホネについては、モニタリング調査と共に学識経験者の意見を聞きながら、生息環境に適した工法を検討し、保全に努める。 						
(4) 優先性	<ul style="list-style-type: none"> 現況の流下能力は計画流量の40%程度しかなく、旧春日町の中心部である当該地域を浸水被害から防御する。 						
再評価の結果	継続	左の理由	藤林橋より上流については、未だに河川計画の位置付けが得られていないが、今後現川を生かした河川計画の見直しについて地元と十分に協議し、河川整備計画への位置付けを行った上で、着手することを条件に事業継続することとする。				

事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第3回〕）



流域概要図



出水状況(H16.10台風23号)

【明德橋上流】



出水状況(改修前箇所)

【船城橋下流】



出水状況、農地浸水状況(改修前箇所)

【新町橋付近】



出水状況(改修前箇所)

【家屋浸水状況】



家屋浸水状況

整備状況(東山橋下流)

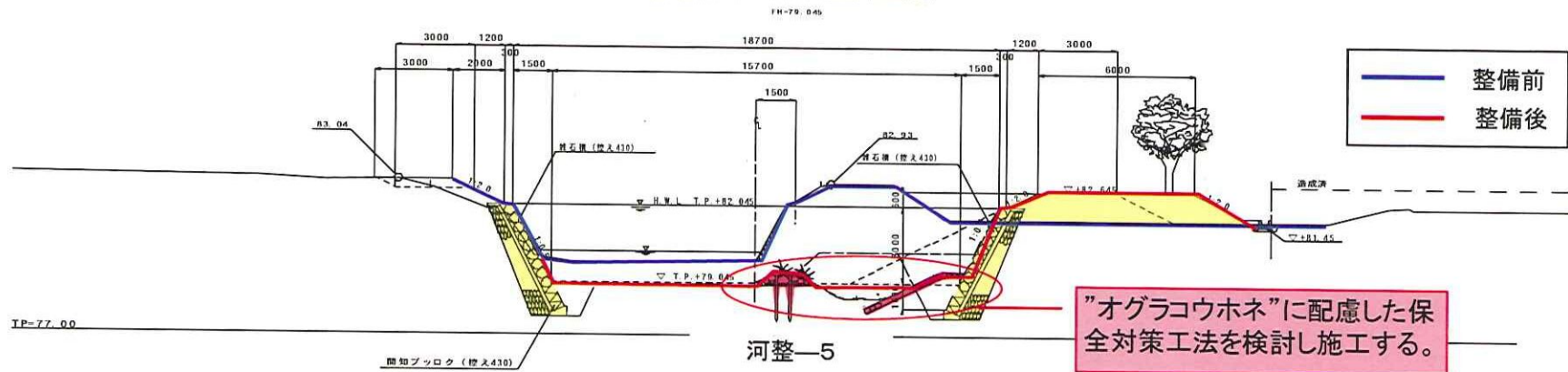
【整備前】



【整備後】



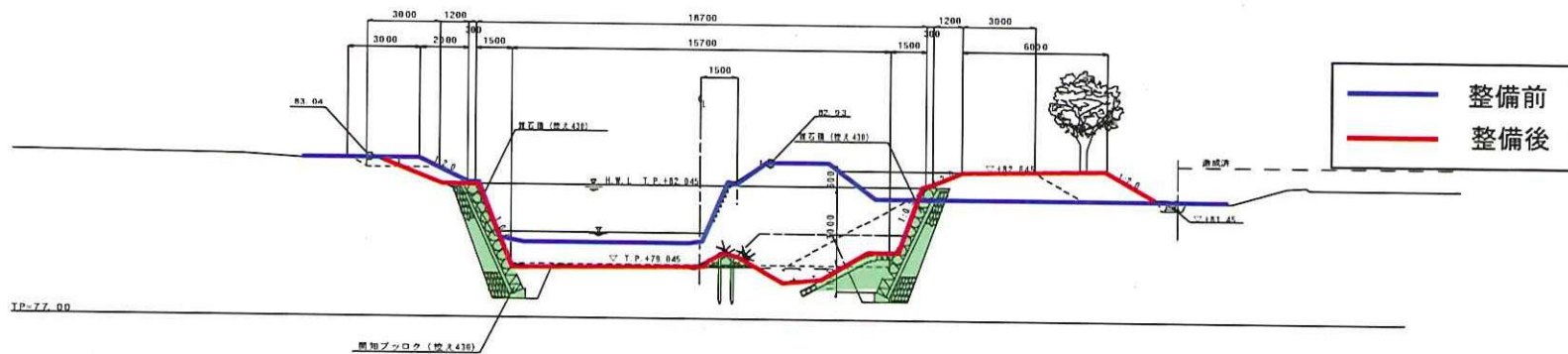
【標準断面図】



東山橋～藤林橋 現況



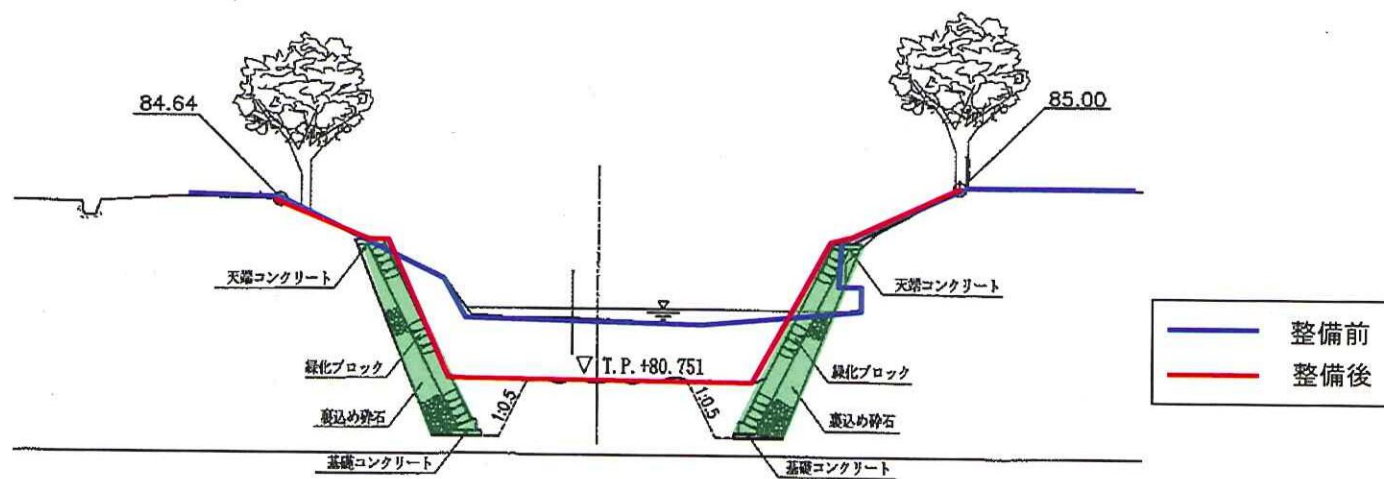
【標準断面図】



藤林橋～馬橋 現況



【標準断面図】



河整—7

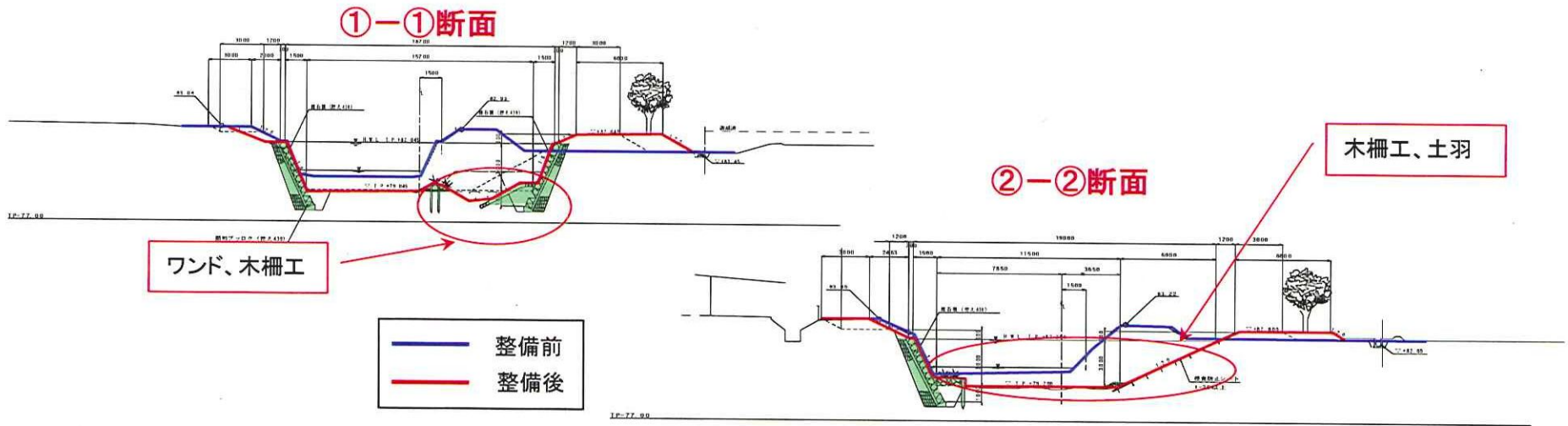
オグラコウホネの保全検討



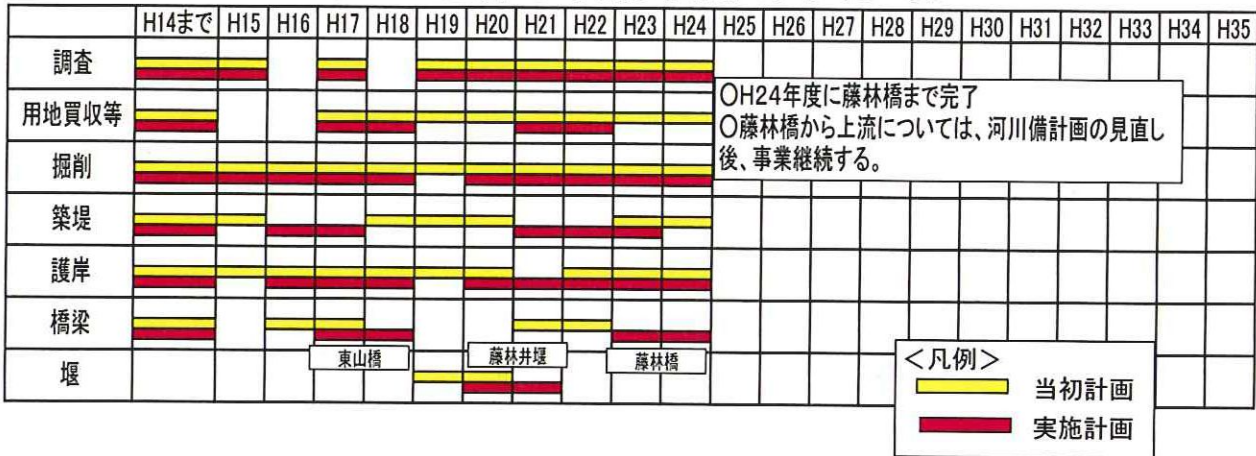
○科名: スイレン科
 コウホネ属
 ○花期: 5月 ~ 9月
 ○レッドデータブック: 絶滅
 危惧種A



高龍寺橋～藤林橋区間



◆竹田川（黒井川）広域基幹河川改修事業スケジュール



◆竹田川（黒井川）広域基幹河川改修事業の費用便益比

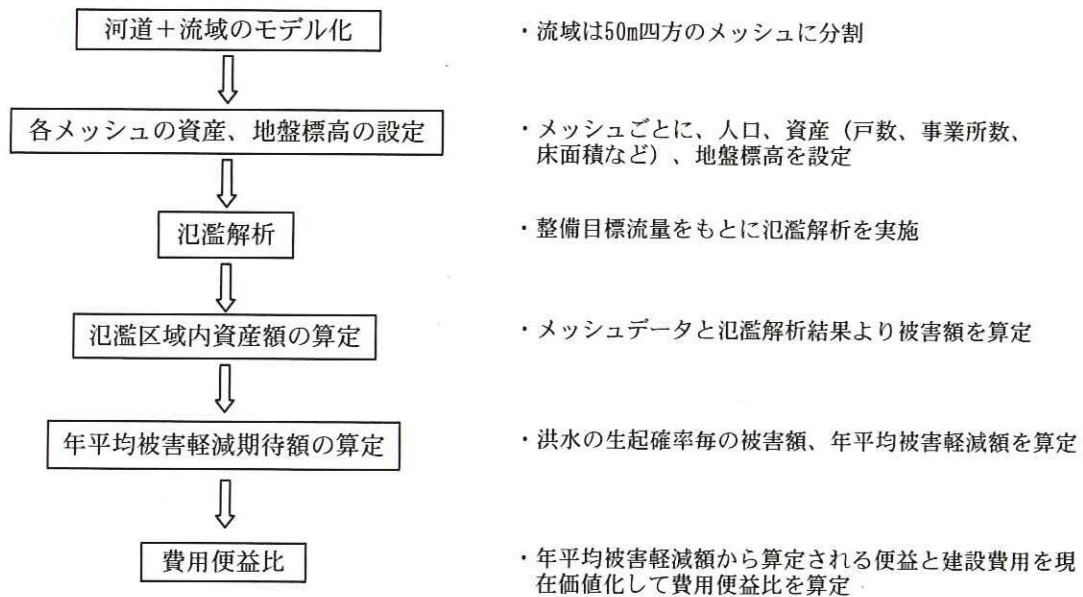
(1) 費用便益比の考え方

- 1) 便益＝治水事業を実施することによる被害軽減期待額を現在価値化
 被害額＝一般資産被害（家屋、家庭用品、事業所償却資産、農漁家償却資産等）
 ＋農産物被害＋公共土木施設等被害＋営業停止被害＋応急対策費用
- 2) 費用＝「建設費＋維持管理費－残存価値」を現在価値化

(2) 算定に用いた資料

治水経済調査マニュアル（案） 建設省河川局 平成19年2月

(3) 便益（B）の算出方法



(4) 費用便益（B/C）

便益(B)		費用(C)			B/C
総便益 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
19,726.0	・浸水戸数183戸(床上7)の軽減 ・浸水面積65haの軽減	6,135.0	3,519.0	2,616.0	3.2